日々徒然

何気ない出来事に心を寄せて

ICT活用の変化に物思う

音更町立駒場中学校
事務職員　相原好希

近年、板書・講義形式が一般的だった学校教育がICTを活用した授業形式に転換しつつある。2019年12月に、GIGAスクール構想の実現に向けた政策がスタートしたのは記憶に新しい。GIGAスクール構想は「全国の子ども1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する文部科学省の取組」のことだ。私が小・中学生の頃には考えられないほどの技術の進歩を感じるとともに、授業形式の変化に寂しさを感じる。

ここまでお分かりいただけると思うが、私はアナログタイプの人間だ。変化を好まず、今までどおりの慣例に倣うやり方が自分に合っている。ただし、変わりつつあるシステムに対応できないと今後の仕事に影響が出てくることも当然予想される。幸運なことに、ICTに精通した職員が多くいる職場で仕事ができていることが唯一の救いだ。既にアプリを活用した「事務だより」の作成、Chromebookを使用したスライドショーの作成などあまたのアドバイスを頂いたことで、無事ICTの波に飲み込まれず、これまで過ごすことができている。

苦手分野に適応するには挑戦するしかない。何もせずに避けているようでは一向に解決しないため、試しに使ってみることがICTの苦手を克服する方法だと気付かされた。また、人とのつながりを大切にすることで、お互いの足りないところを補える関係を築くことができ、今後の社会の変化に対応できると思う。

出会いに感謝

豊頃町立豊頃小学校
教諭　川端郁子

今年で33度目の春をここ十勝で迎える。気が付けば、生まれ育った関西での年数をとうに越してしまった。

初任校は、帯広市内の小学校。本州から来た私のために、同僚になる人たちが住む場所を探してくれて、冬道の歩き方や暖房の使い方、水落としの仕方など、雪国ならではの過ごし方をいろいろと教えてくれた。「熊保険に入った方がいいよ」「農家さんからしか手に入らないデントコーンをもらうといいよ」などといった、今なら冗談と分かる話を本気にしたことも懐かしい。

初めて食べるものもたくさんあった。桜の木の下でジンギスカン鍋でのジンギスカン、行者ニンニクやラワンぶき、いもだんごやかぼちゃだんご、じゃがバターに塩辛、豚丼、ホッケ、ホッキ貝、ツブ貝、ハスカップ、花豆…。そして、春には特別な思いがあることも知った。

「北海道は、5月に一気に花が咲くんだよ」

この言葉の意味は、2年目以降に分かった。関西では、2月に咲く梅の花も、ここでは桜の花と一緒に咲き、春が訪れる。水芭蕉、オオバナエンレイソウ、エゾエンゴサク…初めて見る花々の名前を知った。新緑が目に優しく、あちこちで花が咲き出し、真っ白だった世界から彩りあふれる景色に変わる。爽やかな風が吹き、待ち遠しかった季節の訪れ。四季がはっきりしているところもすばらしい。なんとすてきな所に住んでいるんだろうと思う。

食べ物も季節も景色も大好きな十勝だが、33年間、私はたくさんの人に支えられてきた。きっと、この職業に就いていないと出会えなかったと思う。これまでの出会いに感謝しかない。